

vol.199

Thursday, Sep, 10, 2026

PTA

MIYAGI Parent-Teacher Association

みやぎ

地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましい「みやぎの子」

令和8年度代議員会……………	1～2
会長挨拶・広報紙コンクール……	3
単P会長会・三行詩コンクール…	4
特集・子育て親育ち 〈コミュニティスクールとPTA〉……	5
文部科学大臣表彰……………	6
地区かわら版……………	7
お知らせ・編集後記……………	8



令和8年度宮城県PTA連合会 代議員会 鈴木洋市新会長でスタート

令和8年度宮城県PTA連合会代議員会が、5月30日（土）に宮城県青年会館大会議室で開催されました。「地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましいみやぎの子」を主題とした活動方針と予算、鈴木洋市新会長をはじめとする令和8年度新役員などが承認されました。（詳細は次ページ）



令和8年度代議員会



縮小予算の中、 3専門委員会でも事業展開

平吹淳会長はあいさつの中で、代議員会は宮城県PTA連合会の今後の方向性を決める大切な機会であることに触れ、「PTAは特別な人たちだけで成り立つ組織ではなく、全ての保護者や地域の方々による小さな集まりの積み重ねである」との考えを示しました。更に、単位PTAと宮城県PTA連合会との繋がりを大切にしながら、子ども達の健やかな成長を支えていくことの重要性を呼びかけました。

続く議事では、協議に先立ち児童数減少に伴い会費収入も減少傾向にあることから大幅な事業削減案が提示され、規約改正を含む事業計画や予算、新役員選任などが提案され、全ての議案が承認されました。

特に予算は、令和7年度より600万円少ない縮小予算となりました。

また、平成27年度以来となる規約の改正では、4つの専門委員会の中から健全育成委員会が廃止され、成人教育委員会・総務財政委員会・健全育成的内容を包含した調査広報委員会の3専門委員会で事業を展開することになりました。



令和8年度 役員紹介

会 長	鈴木 洋市 (宮城地区)
副会長	齋藤 勇介 (名取市)
”	木村 奈緒子 (石巻市)
”	笠原 由佳 (富谷黒川地区)
”	湯山 栄大 (大崎市)
”	星 岳大 (南三陸町)
”	鎌田 光伸 (小学校長会)
”	我妻 敬一 (中学校長会)
監 事	星山 純一郎 (多賀城市)
”	仲村 克己 (大崎市)
”	渡辺 和人 (丸森町)
常任理事	大上 さつき (遠田郡)
”	鈴木 幸恵 (宮城地区)
”	伊藤 伸浩 (大崎市)

会長あいさつ

誰もが無理なく参加できる組織へ

令和8年度宮城県PTA連合会

会長 鈴木 洋市



宮城県PTA連合会会員の皆様には、日頃より本会の活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、宮城県PTA連合会会長を拝命いたしました、鈴木洋市（すずき よういち）と申します。

PTAはこれまで、学校・家庭・地域をつなぐ大切な役割を担い、多くの先輩方のご尽力によって子ども達の成長を支えてきました。その歴史と歩みに深く敬意を表するとともに、私は今、PTAが新たな一歩を踏み出す時期にきていると感じています。

近年、保護者を取り巻く環境は大きく変化しています。共働き家庭の増加や価値観の多様化により、「時間がない」「負担が大きい」といった声も少なくありません。しかし、子ども達の成長を願う気持ちは今も昔も変わりません。

だからこそ、これからのPTAは「できる人が、できる時に、できることを」を合言葉に、誰もが無理なく参加できる組織へと進化していく必要があります。参加を義務ではなく共感へ、負担ではなくやりがいへ変えていくことが求められています。

宮城県PTA連合会は、現場の声に耳を傾けながら、時代に合ったPTA活動のあり方を皆様とともに考え行動してまいります。未来を担う子ども達のために、変えるべきものは勇気を持って変え、守るべきものはしっかりと守る。その姿勢で新たな時代のPTAづくりに挑戦してまいります。

今後とも皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

第42回宮城県PTA連合会 広報紙コンクール

去る、令和8年5月9日（土）に第42回宮城県PTA連合会広報紙コンクール審査会が開催されました。

本審査会は、第48回全国小・中学校広報紙コンクールへ出品する広報紙を選定するもので、今年度は小学校10校、中学校9校から応募がありました。

審査は、本会会長及び副会長のほか、宮城県教育庁生涯学習課課長補佐藤原秀光様と有限会社南郷印刷代表取締役石川俊樹様にも加わっていただき、合計10名の審査員により行われました。

審査の結果、小学校の部・中学校の部からそれぞれ金賞・銀賞・佳作各2点ずつ選出され、金賞と銀賞を受賞した8作品が全国コンクールに出品されることになりました。

審査員からは、「PとTの活動が、写真と文章の両方から非常に分かりやすく伝わっている」「AIを活用した文章が増えているが、整いすぎた文章よりも、思いのこもった「粗削りな言葉」の方が読み手に響くこともある」といった講評が寄せられました。

最後に、創意工夫あふれる広報紙を作成された皆さまに、心より敬意を表します。広報活動がPTA活動の周知と活性化につながり、親子の絆、そして地域と学校を結ぶ架け橋となっていくことを願っています。

宮城県内のPTA広報紙が、今後とも全国の舞台で高く評価されることを期待しています。

（令和7年度調査広報委員長 湯山 栄大）

第42回広報紙コンクール入賞団体

《令和7年度発行広報紙》

【小学校の部】

金賞

- ・富谷市立日吉台小学校PTA『ひだまり』
- ・多賀城市立城南小学校PTA『城南PTA通信』



銀賞

- ・塩竈市立第一小学校父母教師会『いずみ』
- ・加美町立東小野田小学校父母教師会『かけはし』

佳作

- ・大河原町立大河原小学校父母教師会『きらめき』
- ・大崎市立古川第四小学校父母教師会『虹』

【中学校の部】

金賞

- ・宮城県古川黎明中学校PTA『きらり』
- ・川崎町立川崎中学校PTA『川崎中学校PTAだより』

銀賞

- ・富谷市立日吉台中学校PTA『やまなみ』
- ・川崎町立富岡中学校父母教師会『すずらん』

佳作

- ・大河原町立金ヶ瀬中学校父母教師会『ふれあい』
- ・大崎市立鳴子小中学校父母教師会『夢をつなぐ』

審査のポイント

- ・掲載内容に積極的な企画性やアイデアがみられるか
- ・写真の効果的な活用による見易さや、記事の読み易さに工夫がみられるか
- ・PTA活動の様子が掲載されているか

第21回単位PTA会長会



令和8年7月11日(土) ホテル白萩を会場に第21回単位PTA会長会が、約140名にご参加頂き開催されました。

開会の挨拶の中で鈴木洋市会長が「PTAは何のためにあるのか、という原点に立ち返り、PTA会長は子どもたちのための『つなぎ役』だ」とお話しされました。

続いて第34代会長浅野直美氏から『これから望まれる未来のPTA』子どもを真ん中に大人が繋がる地域へ』という演題で、戦後からのPTAの成り立ち、これまで担ってきた役割・これから望まれる役割についてご講演いただいた後、事務局長の佐藤博明氏と「子育ては親育ち」という副題のもと、対談が進められました。お二人が経験されてきたことを交えての内容は、PTA活動だけではなく各家庭で子ども達と関わっていく際の指針となる内容でした。

その後、前副会長畑山和晴氏をコーディネーターにお迎えし、20のテーブルに分かれてグループトークが行われました。活発なトークの後、ランダムに選ばれた7人が登壇しグループ発表が行われました。成功事例はもちろんのこと、抱えている課題や失敗事例の共有もなされ、対面でこそ共感できる有意義な会となりました。

(副会長 木村奈緒子)

三行詩コンクール

小学生の部

●大崎市立古川第三小学校 1年 横山 心音
いつてきますのぎゅーまいにちするよ
きょうもがんばる! しょうがつこう

●大崎市立古川第三小学校 1年 高橋 駿仁
いもうとがにゆういんして、パパとふたりでがんばった。
かぞくそろつておもったよ、やつぱりみんないっしょうがいい。

●気仙沼市立鹿折小学校 1年 小野寺 一綺
反抗期 返事はないけど 飯は食う。

●松島町立松島第二小学校 5年 鈴木 陽大
じいちゃんの田んぼは生き物たちのたから箱
「のんびりするな、テキパキ動け」の声がなつかしい
じいちゃんの米が一番おいしい。一つぶ残らず食べるから、空の上で見守つてね。

●気仙沼市立鹿折小学校 6年 後藤 千景
家族の思いが込められた熊すず鳴らして元気に帰る。

中学生の部

●大崎市立鳴子小中学校 7年 八田 咲輝人
妹が生まれてから作るようになったチャーハン
母の「ありがとう、おいしい」がうれしくて照れくさい、今度は僕が「ありがとう」を伝えたい

●加美町立鳴峰中学校 1年 熊谷 咲希
「自分を信じろ」この家族の言葉が、そつと背中を押してくれた。

●加美町立鳴峰中学校 1年 今野 汐莉
今しかない、家族の時間大切に。

●加美町立鳴峰中学校 1年 後藤 玄汰
うまくいかななくて、下を向いた日、家に帰ると父が言った
「下を向くな、次があるから」

●加美町立鳴峰中学校 1年 渋谷 波琉
母がごはんを作っているとき「簡単そうだから今度作ってみよう」と思ってたけれど、母がごはんを作ってくれるありがたさを実際作ってみて、改めて知った。

一般の部

●山内 夏美
参観日 来なくていいよと言つても 教室行つて目が合うと
手を振る笑顔の君 嬉しいな このまま参観日皆勤賞目指すね。

よいいどん 我が子よがんばれ!!こつちを見るな
手を振るな ビリでも笑顔の君は一等賞。
前見て走れ

●佐藤 千尋
我が子へ 生まれてきてくれてありがとう
おとうさんお母さんへ いつもありがとう。
心と心をつなぐ親子の感謝の合言葉「ありがとう」を大切に。

●大宮 理沙
何でもね 話し合える 間柄。

●佐藤 さちえ
「まほうつかいになって、ママのねがいをかなえてあげる!」
もうそんな言葉は言わなくなったけれど「疲れてるみたいだから、早く寝な!」
いつも魔法の言葉をありがとう。

特集 子育て親育ち

コミュニティ・スクールとPTA

全国の公立学校における「コミュニティ・スクール」の導入率は、文部科学省の令和6年度の調査によると58.7%に達しており、設置校数は2万校を超えて全国で導入が急ピッチで進んでいます。

宮城県内では自治体によって導入状況に違いがあるものの、平均導入率は45.9%であり、14の市町村が全校導入を完了しています。本県においても地域ぐるみで学校運営を行う体制が整いつつあります。

全国に広がりを見せるコミュニティ・スクールの仕組みを知り、これからのPTAの役割や関わり方について考えてみたいと思います。



『コミュニティ・スクール』とは

コミュニティ・スクールは、学校内に法律に基づいた3つの機能を持つ『学校運営協議会』を設置し、地域住民や保護者が学校運営に参画することで、学校・家庭・地域が一体となつて「地域とともにある学校」を目指す仕組みです。



導入の背景とその先にあるもの

2000年（平成12年）頃から、不登校・いじめなどの教育課題に対して、地域がもつと学校運営にかかわるべきだという「開かれた学校づくり」の議論が活発になりました。その後、いくつかの学校で研究や検証がスタートし、2004年（平成16年）に正式に制度化されました。さらに、2017年（平成29年）に全国の自治体に対して、コミュニティ・スクールの設置が「努力義務」とされたことから

学校運営協議会が持つ3つの機能

学校運営協議会は地域住民や保護者の代表、学識経験者などで構成され、法律に基づく3つの権限と機能を持ちます。



1. 学校運営の基本方針を承認する

校長が作成した学校ビジョンや方針を協議・承認し、地域と目標を共有します。



2. 学校運営について意見を述べる

学校運営全般について、教育委員会や校長に対して直接、意見を述べるすることができます。



3. 教職員の任用について意見を述べる

学校の教育方針を実現するために、教育委員会に対して教職員の任用に関する意見を述べるすることができます。

コミュニティ・スクールにおけるPTAの役割

PTAは、団体としては権限を持たない任意の協力組織です。

しかし、コミュニティ・スクールにおいては、学校運営協議会に保護者の代表が入ることで保護者の声を届け、学校方針への意見表明や承認・改善に関わることができます。

また、PTAは学校と地域をつなぐ重要な核メンバーとしての関わりも求められています。学校と地域の間にお互いのニーズの違いがある時、それぞれの思いを伝え、学校と地域の距離を縮める役割が期待されています。

昨今のPTAは、共働き世帯の増加などにより従来のままの機能を維持することが難しくなっています。コミュニティ・スクール導入の目的はPTAの解体ではなく、求められているのは「新しい形の保護者組織」へアップデートすることではないでしょうか。

制度導入の先に見えるインクルーシブな温かい社会の再構築実現と、何よりも子ども達の笑顔を守るために、私たちは今何をしなければならぬのかを考え続けていきたいと思います。

ら、導入が一気に加速しました。導入が加速している背景には、法改正の他に「学校の働き方改革」という現実的な課題があります。先生方の多忙化が問題視される中、地域のボランティアや専門家と組織的に連携し分担・協働する体制が不可欠になってきているのです。

また、かつて自然に成り立っていた「地域の教育力」を取り戻そうという狙いもありますが、ここで進められているのは昔への回帰ではなく、令和の時代のセーフティーネットです。その網の中に包み込まれるのは「すべての子ども達」であり、制度の先に見据えている姿は「インクルーシブ」な温かい社会の再構築と言えます。



令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞して

丸森町丸森中学校PTA会長 菊地 利行



菊地会長



PTA総会



奉仕活動

この度、丸森中学校PTAが文部科学大臣表彰を受賞いたしました。この栄えある受賞を会員の皆様、先生方、そして地域の方々と共に大変嬉しく思っております。

今回の受賞は、単に一つの活動が評価された訳では無く長年にわたり、本校PTAが積み重ねてきた地道な活動と、会員一人ひとりの「子どもた

ちの笑顔のために」という熱い思いが結実した結果だと思っております。

私たちPTAの活動は何か特別なことをしている訳ではありませんが、持続可能な組織であるために、役員や会員、先生方があまり負担を感じることが無いようにスリム化も図って来ました。そのような中で大きな活動としては、

「PTA総会」から始まり、夏休み後半には、子ども達が気持ち良く活動できるよう校庭除草をメインとした「奉仕作業」を汗を流しながらがんばりました。10月の文化祭では、キッチンカーも導入した「食品バザー」を行い、高校生ジュニアリーダーにもお手伝い頂き、明るく祭りの雰囲気の中で楽しく思い出に残る

また「PTA講演会」では教養文化委員の方々に尽力頂き、会員と生徒に学びを深めて頂きました。朝の「挨拶運動」は4年間続けており、登校する生徒たちの表情を見守りながら、その成長や変化を感じることができ、顔を合わせて元気に挨拶する大切さを再認識しています。

さらに今年度は「宮城県PTA研究大会丸森大会」を開催し、運営に携わった皆様の尽力により、県内各地の方々ととの交流やPTAの在り方を

我が丸森町は、震災や豪雨災害、そしてコロナ禍といった幾多の困難を乗り越えながら子ども達の学校生活を支え続けてきました。その繋がり、絆の強さも今回の受賞に繋がっていると感じています。

今回の受賞をゴールではなく新たな出発点とし、これからも子ども達が夢と希望を持って楽しく丸森中学校での生活出来るよう、私たちPTAは背中を押す心強い応援団として共に成長し続けたいと考えております。



昼食バザー



PTA講演会

深く考える貴重な機会となりました。

地区 かわら版

遠田郡

「親子の笑顔があふれた」

PTA教育講演会

通信員 齋藤 祐子

涌谷町立月将館小学校で、令和7年12月12日（金）教育講演会を開催しました。講師は訪問歯科医で腹話術師として活躍する千葉俊一氏。低学年はユーモアあふれる人形劇や不思議なお絵描きに大笑いし、会場は歓声に包まれました。高学年は「優しさとは何か」を問う物語に真剣に向き合い、心を揺さぶられる姿が見られました。

会場全体が一体となり、親子で笑い、学び、感動を共有するかけがえない時間となりました。



丸森町

「館矢間小学校で取り組む地域、学校協働活動」

通信員 渡辺 和人

丸森町立館矢間小学校では地域と学校が一体となり子どもたちの「生

きる力」と「地域で子供を育てる意識」を育む地域学校協働として、再編前の旧耕野小学校の思いを受け継ぎ、仙台駅で丸森特産品の「干し柿」販売を実施しました。

地域の方々に教わりながら、千個以上の柿の皮むきや干す作業、袋詰め、販売までの工程を体験したことで、地域の方々への感謝、故郷への愛着と誇り、友だちとの協働など多くの学び大きく成長しました。最後の1個が売れたときの子どもたちの笑顔がそれらすべてを物語っています。



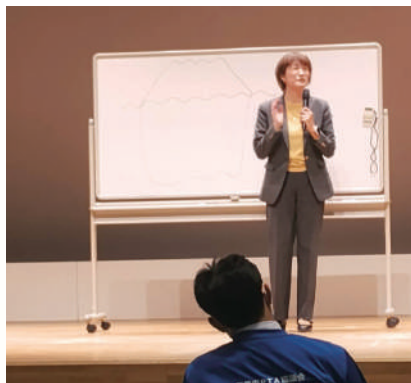
気仙沼市



石巻市
「令和7年度活動報告」

通信員 大森 憲市

石巻市PTA協議会の活動について報告します。令和7年度の協議会では、単P会長の方々と「学校での防災教育・家庭でできる防災」についての勉強会の開催、楽しい思い出つくりツアーと題して家族ボウリング大会の開催、11月には石巻市PTAセミナーを講師にドリコムワールド代表の阿部侑生様を迎えて「子どもの笑顔あふれる未来をめざして」題して講演を頂きました。事務局・役員の皆様にも恵まれ、役員会でも活発な意見と（笑いもあり）で和気あいあいと活動しております。



蔵王町

「井戸井山再生プロジェクト」

通信員 新貝 英歴

宮小学校西側に隣接する井戸井山（標高70m）山頂尾根と階段整備を毎月1回行っています。メンバーは現P会員、歴代P会員、教職員、地域の方で構成されています。

この山には、以前TVでも紹介された山頂中腹から滑ることができるジャンボ滑り台があり、子どもたちが上りやすいように、整備作業を実施しています。

また、卒業前には桜の苗木を卒業

生にプレゼントして、山頂に桜の植樹を行っています。この桜の成長とともに子どもたちが将来様々な素晴らしい花を咲かせることを祈り、今後も心を込めて作業に取り組んでいきたいと思っています。



多賀城市

『つながる力、広がる未来』

城南小学校 創立50周年記念事業

通信員 菅原 愛由香

多賀城市立城南小学校は、昨年度、創立50周年という大きな節目を迎えました。

10月に行われた記念式典では、これまで受け継がれてきた学校の歩みと、人と人とのつながりの大切さを改めて感じる事ができました。

また記念事業として、法被や横断幕、記念誌の作成に取り組み、児童・保護者・地域の皆さまと共に、この節目を形に残すことができました。

児童も参加できる式典を目指し、司会や企画に児童の皆さんの協力をいただき、学校全体で準備を進めました。

これからも城南小学校ならではの「つながる力」を大切にしながら、未来へひろがるPTA活動を続けていきたいと思っています。

名取市

「佐藤あり紗来校

バレエボール教室開催」

通信員 相澤 祐輔

名取市立館腰小学校ではバレエボール教室を6学年対象に開催しました。講師には、リオデジャネイロオリンピックで活躍された、佐藤あり紗様に来校頂き、バレエボールの基礎から楽しさ、チームでの声掛けの大切さなど多岐に渡り指導頂きました。

株式会社ナチュリノ様からは、ジェラートのプレゼントまで頂き盛大に教室を終える事ができました。又、佐藤あり紗様からその後、地域のスポーツ少年団での開催の希望もあり、名取VBCにもご指導、頂きました。





お知らせ

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>
☎022-295-9581・9590

各表彰関係、申し込み等の日程について

以下についてはすべて「マチコミ」でご案内します。

パソコンの受信トレイをご確認ください。

11月4日(水)

- ・令和8年度額縁、表彰状及び感謝状の共同購入について
- ・令和8年度単位PTA功績者の推薦について

11月30日(月)

- ・令和9年度文部科学大臣表彰（団体）の申請について
- ・令和9年度日本PTA会長表彰（個人・団体）の申請について
- ・東北ブロックPTA会長表彰（個人・団体）の申請について



第75回宮城県PTA研究大会 塩竈大会 開催

第75回宮城県PTA研究大会



第75回宮城県PTA研究大会

ふるさとの未来を創る子供

子どもたちの笑い声があふれるまちを目指して

令和8年10月25日(日)

会場 塩釜ガス体育館

主催 宮城県PTA連合会

主管 塩竈市PTA連合会

歴史と文化、そして豊かな海に育まれたまち、塩竈を会場に、令和8年度宮城県PTA研究大会を開催いたします。

子ども達を取り巻く環境が大きく変化する中、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を理解し共に支え合うことの大切さが改めて求められています。

本大会では、講演を通して子ども達の健やかな成長を支えるために私たちができることを考え、参加者同士の交流を通じて新たな気づきや学びを深める機会としたいと考えています。講師には、教育実践で広く知られる木村素子氏をお迎えする予定です。

塩竈の地で、未来を担う子ども達のために何ができるかを共に考え、それぞれの地域や学校での活動につながる有意義な一日となることを願っております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(実行委員長 鈴木 晶晴)

編集後記

広報紙「PTAみやぎ」を手にとっていただき、ありがとうございます。今年度より、健全育成委員会が担ってきた内容も調査広報委員会が引き継ぎ、子どもたちの健やかな成長を支える多彩な情報を、より幅広くお届けしてまいります。また、発行は年3回から年2回となりますが、その分、紙面をより充実させ、読み応えのある広報紙づくりに努めてまいります。県内各地で紡がれるPTA活動や皆さまの思いが本紙を通して新たな学びや繋がりがへと広がることを願っています。これからも「PTAみやぎ」をどうぞ宜しくお願いいたします。

令和8年度調査広報委員会

委員長	伊藤 浩	(大崎市)
副委員長	郡山 竜太	(岩沼市)
委員	鈴木 晶晴	(塩竈市)
	佐久間 朱夏	(白石・刈田)
	大平 一光	(角田市)
	福田 俊之	(大崎市)
	曾根 昭	(栗原市)
	大森 憲市	(石巻市)
	小野寺 毅	(登米市)
	湯山 栄大	(大崎市)
担当副会長	笠原 由佳	(富谷黒川)
	我妻 敬一	(中学校長会)